

# はばたきインクル支援だより



深谷はばたき特別支援学校 令和2年10月 1日 No.24



小学校の1年生のクラスを巡回すると、様々な掲示物が目に入ります。習いたての字を書いたもの、夏休みの思い出の絵、糊やはさみを使った作品などです。「元気一杯だな」「丁寧に書いているな」とほほえましくなる一方で、文字の形が整わなかったり、マスから大きくはみ出してしまっているのを見ることがあります。また、学習の様子を見てみると、消しゴムできれいに消すことができない児童や、定規で線をまっすぐに引けない児童を見ることがあります。

単に不器用なのでしょうか。今回は発達性協調運動障害について学びます。

## 特集 発達性協調運動障害(DCD)とは？

### 1. 発達性協調運動障害

- A) 協調運動技能の獲得や遂行が、その人の生活年齢や技能の学習および使用の機会に応じて期待されているものよりも明らかに劣っている。その困難さは、不器用(例:物を落とす、または物にぶつかる)、運動技能(例:物を掴む、はさみや刃物を使う、書字、自転車に乗る、スポーツに参加する)の遂行における遅さと不正確さによって明らかになる。
- B) 診断基準 A における運動技能の欠如は、生活年齢にふさわしい日常生活動作(例:自己管理、自己保全)を著明および持続的に妨げており、学業または学校での生産性、就労前および就労後の活動、余暇、および遊びに影響を与えている。
- C) この症状の始まりは発達段階早期である。
- D) この運動技能の欠如は、知的能力障害(知的発達症)や視力障害によってうまく説明されず、運動に影響を与える神経疾患(例:脳性麻痺、筋ジストロフィー、変性疾患)によるものではない。  
『DSM-5 精神疾患の診断・統計マニュアル』(医学書院)

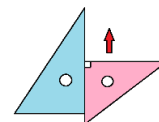
### 2. 学校で見られる発達性協調運動障害的傾向のある行動とは？

#### (1) 粗大運動に見られる場合

- ・ 歩く姿勢や、スキップ、走るフォームがぎこちない、泳げない、自転車に乗れない
- ・ 跳び箱やマット運動やボール運動、鉄棒が極端に苦手
- ・ 縄跳びができない(縄にひっかかるというのではなく、縄が頭上に来ている時にジャンプしたり、縄を放してしまったりするなど)

#### (2) 細かな運動に見られる場合

- ・ 物を扱う時の姿勢が悪い
- ・ きれいに書けない(1文字ずつ字の大きさが違う、マスからはみ出す、まっすぐに書けないなど)
- ・ はさみが使えない(切ることはできるが、反対の手で紙を動かすことができない)
- ・ 定規を組み合わせて使うのが苦手、コンパスをうまく回せない
- ・ 楽器演奏が苦手
- ・ 靴ひもやエプロンの紐が結べない、箸の持ち方がぎこちない



### 3. 本人の気持ち

発達性協調運動障害的な傾向のある人は、その苦手さが他者から見られてしまうというつらさを抱えています。サッカーボールを蹴る時に空振りして笑われたり、絵や習字を掲示されたりするたびに傷ついていることがあるかもしれません。

TVで「運動オンチ芸人」などをやっていることがあります。彼らは苦手さを笑いに変える力のある人たちなのかもしれません。でもその力がない子どもはどうすればいいでしょう。

自分の作品などを見られたくないと思う子どももいると思います。掲示の目的を再度考え、必要な配慮を考えます。

### 4. 対応の上で重要なこと

- ・ やり方を具体的に教える。
- ・ 適切な道具の使い方を最初に教える。
- ・ 急かさない。「ゆっくりでいいよ」を伝える。
- ・ できることから取り組ませる。できないことを責めない。
- ・ 支援者は手を出し過ぎない。任せるところは任せて、自分でやらせる。
- ・ 支援グッズを効果的に使う。(逆上がり補助ベルト、握って回すコンパスなど)

### 5. 支援の例（書くこと）

「ちゃんと」「しっかりと」という指導は、具体性がなく、子どもを困らせるだけになってしまいます。ここでは「書くこと」を例に上げてみます。

「書くこと」は主に二つの点で評価されます。一つは「読みやすさ」、もう一つは「書く速さ」です。

読みやすい字を書くためには、形・大きさ・文字と文字の間隔の取り方・配置などが必要な要素になります。ここでは目の動きと、姿勢が重要なキーワードになります。ここがうまくつかめない場合は、マスや罫線のあるノート、キーワードを書き込む枠があるとやりやすくなります。

「書く速さ」は書くなめらかさが重要です。鉛筆の先が止まっている状態から動き出し、減速して止める一連の動きのスムーズさです。ここが難しいと枠から字がはみ出してしまうたり、はらいやとめがおかしくなってしまうたり、線の長さが不釣り合いになってしまいます。筆圧の強さも影響していると思われる。

午後の授業のノートの方が明らかに整わなくなってしまう場合は、負担がかかっていることも考えられます。同じ「書く」という動きを、1時間目から午後まで続けられないことが考えられます。

また書くことだけでなく、黒板を読み取る力や読んで記憶する力、ノートのどこに書くのかを見つける力も求められます。定型発達の子どもの黒板を見る時間はほんのわずかですが、弱さのある子どもはしばらく見続けたり、同じところを何度も見直すことが観察されます。

このような弱さのある子どもたちがきれいに書くためにはかなりのエネルギーを使っているものと考えてください。書くことに精一杯で、書いてある内容がなかなか覚えられないことがあります。本当の意味での学習にはつながらないことがあるので、「書く」ことを見直すことも必要です。



たくさん練習すればうまくなるという側面は確かにあると思います。しかし、苦手なことや、本人の努力ではなかなか変わらないことを何度も強いられるつらさも理解しながら進めていきましょう。